

大津市歴史的風土保存区域（素案）に係る意見募集等の概要

1. 国土交通省ホームページ等によるご意見の聴取

公表、配布又は縦覧した資料について

「大津市における歴史的風土保存区域（素案）について」

(1) 大津市における歴史的風土保存区域の指定の考え方

(2) 大津市における歴史的風土保存区域（素案）図面

図 - 1 全体概要図

図 - 2 比叡山・坂本地区

図 - 3 近江大津京跡地区

図 - 4 園城寺地区

図 - 5 音羽山地区

図 - 6 石山寺地区

(3) 歴史的風土保存区域と行為の届出等について

大津市歴史的風土保存区域（素案）の公表・意見募集の方法について

区 分	公 表 ・ 募 集 方 法	募 集 期 間 等
国土交通省	国土交通省ホームページ ・電子メール、郵便、FAX	12/5～12/26
滋 賀 県	滋賀県庁ホームページ (国土交通省ホームページへリンク)	12/5～12/26
	資料縦覧 : 滋賀県土木交通部都市計画課	12/5～12/19
大 津 市	広報「おおつ」(12/1号) 大津市ホームページ ・電子メール、郵便、FAX (国土交通省ホームページへリンク)	12/5～12/26
	資料縦覧: 大津市役所都市景観室 及び市役所各市民センター(31箇所)	12/5～12/19

2. 現地説明会でのご意見の聴取

国土交通省主催により、歴史的風土保存区域（素案）に関する説明会を下記のとおり開催した。

日時 平成16年1月14日（水） 午後1時30分～15:15

会場 大津市役所内別館大会議室

出席者人数

市民	11名	合計 15名
報道関係者	4名	

3. 大津市の歴史関係の有識者からのご意見の聴取

大津市の歴史や文化に係る学識者2名の先生に対し、書面をもって「歴史的風土保存区域指定の考え方」や「歴史的風土保存区域（素案）」に対するご意見を伺った。

両先生のご略歴については、別紙

きむら よしひろ 木村 至宏 先生	成安造形大学学長・教授	日本文化史 博物館学
はやし ひろみち 林 博通 先生	滋賀県立大学助教授	日本考古学

4. 意見募集等に係る報道発表

平成15年12月4日、国土交通省、滋賀県、大津市において、それぞれの所属記者会に対しご意見募集、資料縦覧及び現地説明会の開催等に係る報道発表（資料配布）を実施した。

【参考：添付資料】

広報「おおつ」（平成15年12月1日号）

大津市における歴史的風土保存区域（素案）に関する意見募集について

（国土交通省ホームページ）

同 意見募集について（滋賀県庁ホームページ）

同 意見募集について（大津市役所ホームページ）

平成15年1月14日 大津市歴史的風土保存区域（素案）説明会資料*

* 記者発表資料、市役所等における縦覧資料についても同内容

木村 至宏 (きむら よしひろ)



成安造形大学学長・教授

1935年10月滋賀県生まれ

大谷大学大学院文学

研究科国史学専攻中退

所属学会等

芸能史研究会会員 / 日本展示学会会員 / 日本宗教民俗学研究会会員 / 交通史研究会会員 / 日本歴史学会会員 / シルク研究会会員

専門分野等

日本文化史
工芸史（工芸の歴史から生活文化の変遷を見る）
民俗学（人々の伝承文化を探る）
交通史（道のもつ文化的特性）
地域史（近江の歴史と文化の諸相）
博物館学
博物館施設の機能とマネジメント

研究業績等

主な受賞

1996 第40回京都新聞文化賞受賞

主な論文

- 1976 「近世における曳山祭礼について」(芸能史研究 第53号)
1998 「開かれた博物館をめざして」(博物館研究 第28巻 第2号)
1999 「東海道の歴史的意義について」(滋賀県中近世古道調査報告書 No.3)

主な著書

- 1971 『近江の道標』(民俗文化研究会)
1977 『日本都市生活史料集成 8 港町篇』(学習研究社 共著)
1977 『江戸時代図誌 畿内 I』(筑摩書房 編著)
1978 『明治大正図誌 近畿』(筑摩書房 共著)
1979 『新修大津市史』第2巻～第10巻(大津市 共著)
1980 『古寺巡礼近江』第1巻～第5巻(淡交社 共著)
1982 『図説日本の町並み 6 東海篇』(第一法規出版 共著)
1982 『近世風俗図譜 祭礼 I』(小学館 共著)
1982 『近江の街道』(サンブライ出版 編著)
1983 『東海道分間延絵図 20・21』(東京美術)
1984 『史料 京都の歴史』第5巻(平凡社 共著)
1985 『日本の伝統工芸 近畿』(ぎょうせい 共著)
1986 『日本の神々 5・神社と聖地』(白水社 共著)
1987 『図説 滋賀県の歴史』(河出書房新社 編著)
1991 『日本歴史地名大系 滋賀県の地名』(平凡社 編共著)

- 1993 『別冊太陽 京の百祭』(平凡社 共著)
1994 『平安時代事典』(角川書店 共著)
1995 『図説 近江古寺紀行』(河出書房新社)
1995 『近江の歴史と文化』(思文閣出版 編著)
1995 『朝鮮通信使』(明石書店 共著)
1997 『江戸時代人づくり風土記 滋賀』(農文協 編共著)
2000 『近江の道標 歴史街道の証人』(京都新聞社)
2001 『琵琶湖 その呼称の由来』(サンライズ出版)
2003 『いくつもの日本3』(岩波書店 共著)

社会活動等

滋賀県中近世古道調査委員会委員長 / 近江地方史研究会代表幹事 / 滋賀県景観審議会委員 / 大津市文化財専門委員会委員 / 滋賀県近江歴史回廊大学運営委員代表 / 大津市歴史博物館顧問 / 滋賀総合研究所参与 / 滋賀県文化創造懇談会会長 / 大津市都市計画審議会景観形成専門委員会委員

滋賀県立大学

はやし ひろみち
助教授 林 博通

所属 人間文化学部

最終学歴 京都教育大学卒業（1968年3月）

学位 博士（歴史学）

職歴 和歌山県教育委員会文化財課 埋蔵文化財技師（1970年～1972年）
滋賀県教育委員会文化財保護課 埋蔵文化財技師・主査・係長（1972年～1990年）
滋賀県文化財保護協会 専門員（1990年～1995年）

専門分野 日本考古学

研究課題 古代近江は遣隋使・小野妹子や遣隋使と第1回遣唐使となった犬上御田鍬、高句麗使・犬上白麻呂など、当時のわが国を代表する国際人を多く輩出している。近世、朝鮮外交に多大の功績を残した雨森芳州もしかりである。朝鮮半島や中国からかなり隔たった内陸の近江になぜこうした人物が多く輩出したのか。それは少なくとも古墳時代にさかのぼって考える必要があり、これは近江遷都にも通じる近江文化の特質にもかかわる問題といえる。また、近江の歴史は琵琶湖の存在と大きく関っており、琵琶湖はここで活動する人々と不可分の関係にあるが、湖底遺跡はその具体的な証拠である。大津京の実態解明や近江各地に散在する渡来文化、湖底遺跡などを、遺跡や遺物から考古学的方法による実証的解明を研究課題としている。

教授科目 考古学、基層文化論、地域文化演習Ⅰ・Ⅱ、文化財・保存修景論Ⅱ、地域研究実習、院日本考古学、院 日本・地域文化論特別演習、院 日本・地域文化論特別研究

学会での活動状況 日本考古学協会会員、考古学研究会会員、条里制・古代都市研究会評議員・庶務委員、アジア史学会会員、古代瓦研究会幹事ほか

主な研究実績

この30年間、滋賀県下の埋蔵文化財の保護に伴う数多くの発掘調査に従事するかたわら、近江の原始・古代について考究してきた。特に、古代の一時期、わが国の政治・経済・文化等の中心となった大津京については、江戸時代以来多くの研究者により解明が試みられてきてなおその位置すら明らかでなかったが、初めて大津京の宮殿跡を発見し、その後幾つかの宮殿遺構を発掘して、大津宮の構造解明の端緒を切り開いてきた。また、大津京関連の穴太廃寺や榎木原瓦窯等の調査を通して大津京の実態を究明してきた。

主な著書『大津京跡の研究』、『さざなみの都大津京』、『大津京』、『図説滋賀県の歴史』（共著）『近江の古代寺院』（共著）『滋賀県の歴史』（共著）『城と湖と近江』（編著）『錦織遺跡 - 近江大津宮関連遺跡 - 』、『榎木原遺跡発掘調査報告書・・・』ほか。

地域貢献活動

滋賀県環境影響評価審査会委員（滋賀県）
特別史跡彦根城跡保存整備実施計画検討委員会委員（彦根市）
「旧彦根藩松原下屋敷（お浜御殿）庭園」保存管理計画策定委員会委員（彦根市）
大岩山古墳群調査整備委員会委員長（野洲町）
（財）滋賀県文化財保護協会理事
滋賀県レイカディア大学講師（米原校・草津校）